



ジヤトコについて

企業情報

企業理念

価値創造のあゆみ

目指す姿

コア技術

モノづくりの考え方



企業情報

会社名	ジャトコ株式会社（英文名：JATCO Ltd）
事業内容	自動車用変速機、 電動パワートレインおよび 部品の開発・製造・販売
設立	1999年6月28日
本社所在地	静岡県富士市今泉700番地の1
従業員数	12,500人（2024年3月31日現在、連結）
代表	代表取締役社長兼最高経営責任者（CEO） 佐藤 朋由
資本金	299億3,530万円
株主	日産自動車（75%）、三菱自動車工業（15%）、 スズキ株式会社（10%）

財務状況（連結）

単位：億円

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	5,428	5,613	5,400	6,217
営業利益	186	267	28	241
当期純利益	58	165	△48	158

（参考）

国内関係会社

- **ジャトコ エンジニアリング株式会社**
〒417-0002 静岡県富士市依田橋125番地の1
- **ジャトコ ツール株式会社**
〒417-0023 静岡県富士市吉原宝町1番1号
- **ジャトコ プラントテック株式会社**
〒417-0023 静岡県富士市吉原宝町1番1号

海外関係会社

- **ジャトコ 米国会社**
1974 Midway Lane, Smyrna, TN 37167, USA
- **ジャトコ メキシコ社**
Carretera Panamericana Km 75, Col. Los Arellano, C.P. 20340. Aguascalientes, AGS., Mexico
- **ジャトコ 韓国エンジニアリング社**
Lotte IT Castle 2-4F, 98, Gasan digital 2-ro, Geumcheon-gu, Seoul 08506, Korea
- **ジャトコ 韓国サービス社**
Lotte IT Castle 2-412, 98, Gasan digital 2-ro, Geumcheon-gu, Seoul 08506, Korea
- **ジャトコ（広州）自動変速機有限公司**
NO.8, Lihong 2 Road, Science City, Guangzhou Hi-Tech Industrial Development Zone, Guangzhou, Guangdong, 510530, China
- **ジャトコ（蘇州）自動変速機有限公司**
No.2 Tangqiao Road (M), Tangshi Community, Yangshe Town, Zhangjiagang City, Jiangsu Province, 215600, China
- **ジャトコ フランス社**
ZAC des Godets - Batiment C, 1-4 Impasse de la noisette, 91370 Verrières le Buisson, France
- **ジャトコ タイランド社**
700/999 Moo 3, Amata Nakorn Industrial Estate, Thumbon Nongkakha, Amphur Phanthong, Chonburi 20160, Thailand

企業理念

—— コーポレートパーパス ——

私たちの存在意義

技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる

モビリティは、人やモノの移動を可能にする。移動は、ただ動くことではない。

無限に広がる空間を動けば、新しい出会い、新しい経験が生まれ、新しい世界が開ける。

だからモビリティの可能性が拡がり、一人ひとりが思う通りの移動ができれば、

全ての人々の心に感動が生まれ、人々の交流に活力が溢れる。そして世界はより自由で豊かになる。

ジャトコは、そんな世界の実現を目指し、技術と情熱でモビリティの可能性を拡げます。

—— ミッション ——

私たちは、社会から信頼される企業として、

グリーン、安全、快適そしてワクワクする商品・サービスを通し、

モビリティに新しい価値を提供します。

—— 価値観：T-E⁺-A-M ——

Team leadership by everybody

全員によるチームリーダーシップ

Entrepreneurship

アントレプレナーシップ

External mindset

外界志向・顧客志向

Aspiration to win

勝利へのこだわり

Monozukuri excellence

モノづくりの極み

激しく変化する事業環境の中で、ジャトコは改めて自社が社会に存在する意義を問い直しました。

「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスは、予測が難しい未来に向けて私たちの向かう方向性を示しています。

また、自らの強みを活かし、モビリティを通してよりよい社会の実現に貢献したいという、私たちの願いでもあります。

コーポレートパーパス実現を推進すべく、2024年4月から従業員共通の価値観であるT-E-A-Mに、失敗を恐れず挑戦して新たな価値を創出する意味を持つEntrepreneurship[アントレプレナーシップ]を追加した、T-E⁺-A-Mを新たな価値観として定義しています。

「技術」

ジャトコにとって技術は最も重要な資産であり価値の源泉です。

これまで磨き続けてきた技術を大切にし、さらに深化させ、未来を切り拓く思いを込めています。

「情熱」

ジャトコは、モノづくりへの情熱、イノベーションへの情熱、そしてお客さまへの情熱で、新たな可能性を探索します。

情熱は私たちのチャレンジの原動力となります。

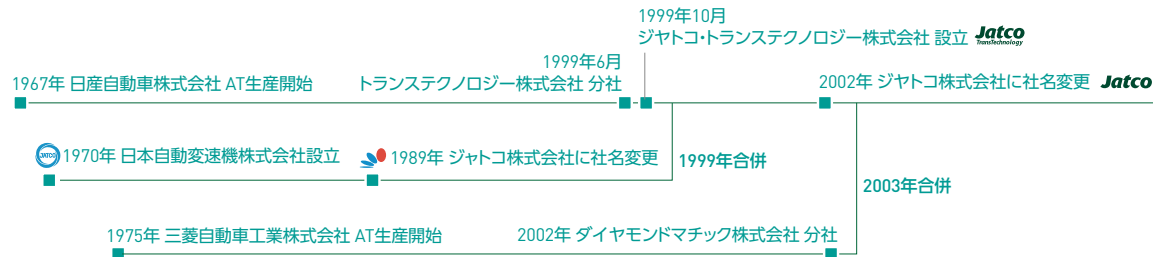
「モビリティ」

社会活動での移動とその手段の全てがモビリティです。

クルマを走る地表だけでなく、海、空、宇宙へと、モビリティの範囲は広がっていきます。

ジャトコの活動エリアもどんどん拡げていきます。

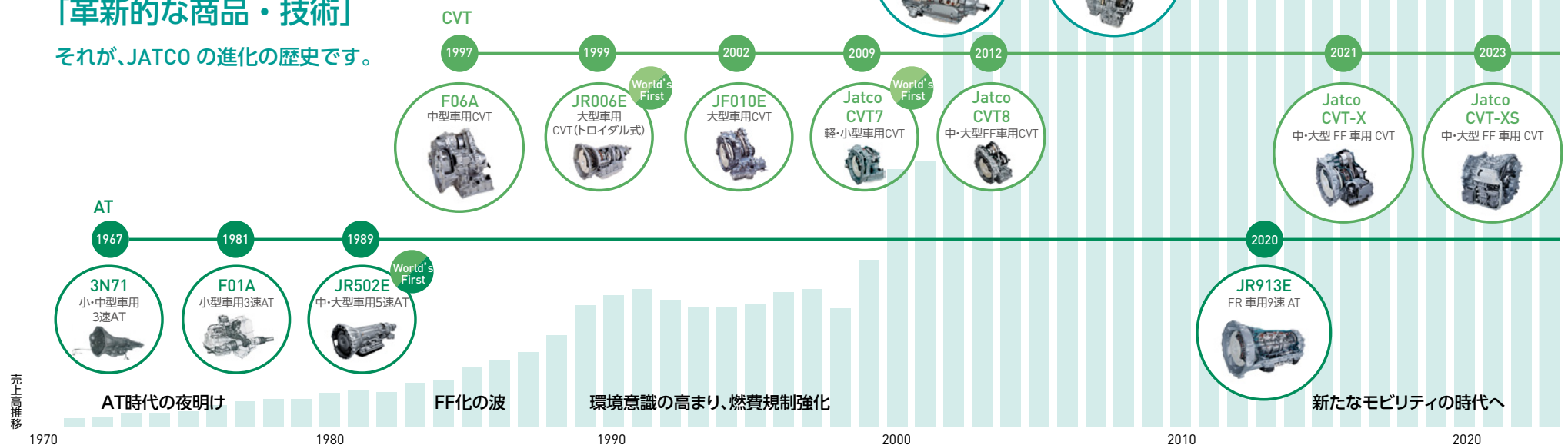
価値創造のあゆみ



創業訓

人を大切に
すべてに清潔に
常に最高の品質を

常に時代をリードする
「革新的な商品・技術」
それが、JATCO の進化の歴史です。



目指す姿

ジャトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拓ける」というコーポレートパーパスのもと、自動車用トランスミッションメーカーとして長年培ってきた技術を活かし、移動がもたらすより良い社会の発展に貢献していきたいと考えています。加速する電動化の中で、電動パワートレインメーカーとしても、独自技術を活かした競争力のある商品を提供することで、より豊かな電動車両の未来の実現に貢献し

ます。また、その技術を自動車以外の新しいモビリティにも広げ、あらゆるモビリティへのドライブユニット提供の可能性を探っていきます。ジャトコならではの技術とノウハウを最大限に活用し、お客さまや社会に価値ある新しい商品やサービスを提供することで、環境課題や社会課題の解決を視野に入れながら、持続可能な社会の成長とジャトコの成長を両立させていきます。

あらゆるモビリティにドライブユニットを提供



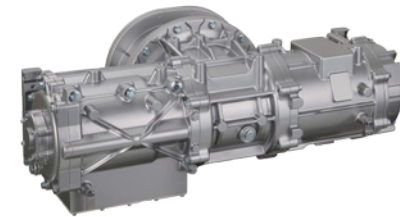
X-in-1 (3-in-1)



X-in-1 (5-in-1)



超小型e-Axle



e-Axle (変速機能付)

サステナビリティへの
関心の高まり

カーボンニュートラル
サーキュラーエコノミー
クルマからモビリティへの価値変化

安全で快適な移動の実現

持続可能な
社会の実現への貢献



移乗機構付車いす



電動アシスト自転車用
ドライブユニット



電動バイク用2速インホイール
モータードライブユニット

コア技術

ジャトコのコアコンピテンシー

前身会社の一つである日本自動変速機の創業以来、ジャトコが世に送り出した自動車用オートマチックトランスミッションの累計台数は1億2,900万台以上にのぼります。これらCVT/ATの開発生産を通して磨いてきた、動力伝達機構の領域における、開発能力、生産技術がジャトコの強みです。

開発においては、ユニット、コンポーネントの設計・製造に加え、常に自動車メーカーとともに車両システムを開発に携わってきました。これにより、車両の制御、通信も含め、動力性能や静粛性、

熱マネジメントまで対応することが可能です。また、生産においては、高精度の設計・加工技術や、高品質の製品をグローバルな生産拠点で量産し、安定的に供給することを強みとしています。

これらのコアコンピテンシーを最大限に生かし、電動パワートレインや新たなモビリティへの貢献など、新しい価値の提供を追求していきます。

車両～商品～コンポーネントすべてで価値を提供

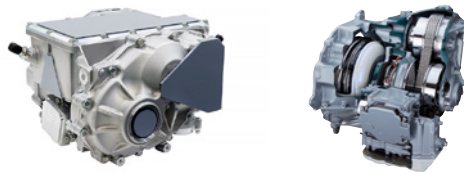
車両システム開発

- 動力性能
- 静粛性
- 熱マネジメントシステム



ユニット開発

- 電動化ユニットシステム
- e-Axle など



コンポーネント開発

- コア部品
- ギア、モーター、原材料 など



CVT/ATの動力を伝達する機能を担うギアなどの設計・加工技術



高品質の商品をグローバルで安定的に供給する技術

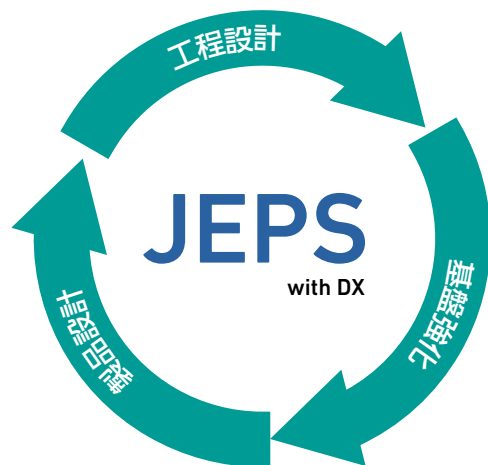


モノづくりの考え方

お客さま視点で目指す「世界No.1のモノづくり」

ジャトコは、お客さまの変化に限りなく早く対応し、品質（Quality）、時間（Time）、コスト（Cost）における世界No.1のモノづくりを目指し、独自の生産方式「JEPS」（JATCO Excellent Production System）を構築・運用しています。JEPSは、素材仕入から加工、そして組立から出荷に至る一連の工程を1本のラインのように同じスピード・同じ順序で稼働させタイムリーな生産・運搬を行うことで、一切のムダを排除するシステムです。

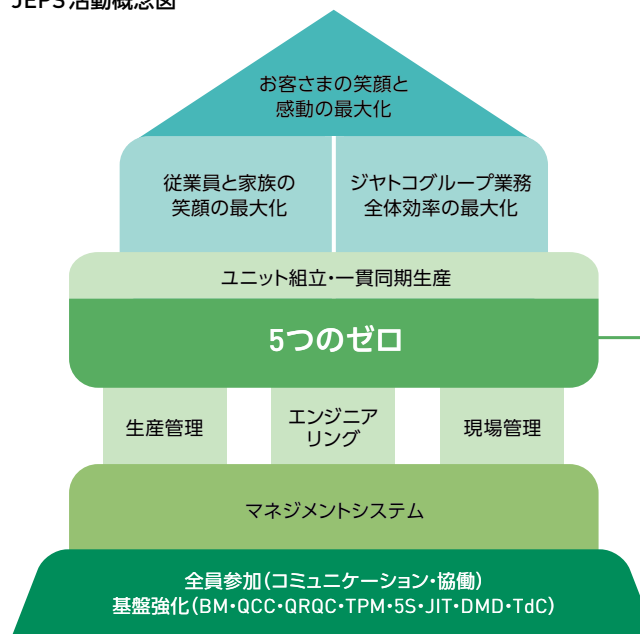
JEPSにより、サプライチェーン全体で「限りないお客さまへの同期」と「限りない課題の顕在化と改革」という2つの「限りない」を実現します。



JEPSイノベーションを推進

JEPSの基本的な考え方は、「限りないお客さまへの同期」と「限りない課題の顕在化と改革」の2つに集約されています。この2つの「限りない」を追求するため、ジャトコでは「5つのゼロ」を明確な指標と定め、その実現を目指しJEPSの改善を続け、省エネルギー・省資源化を推進しています。

JEPS活動概念図



JEPS活動

SQTCE^{*1}すべての領域で競争力向上にチャレンジ

生まれの良いモノづくりの実現（MP^{*2}サイクル）

量産後「品質リスク」を残さない品質設計と計画通りの結果を出す工程設計を進めます。

DXツール開発&活用による高効率寄与

さまざまな停止ロスの最小化（点検、測定、調整等）問題の予知・予防、クイックアクションを行います。

全員参加TPMによる基盤強化で結果を出す

限りない改善の実行と設備に強い人材育成（製造、保全、技術、品証、etc.）を行います。

*1 Safety, Quality, Time, Cost, Environment

*2 Maintenance Prevention

5つのゼロ

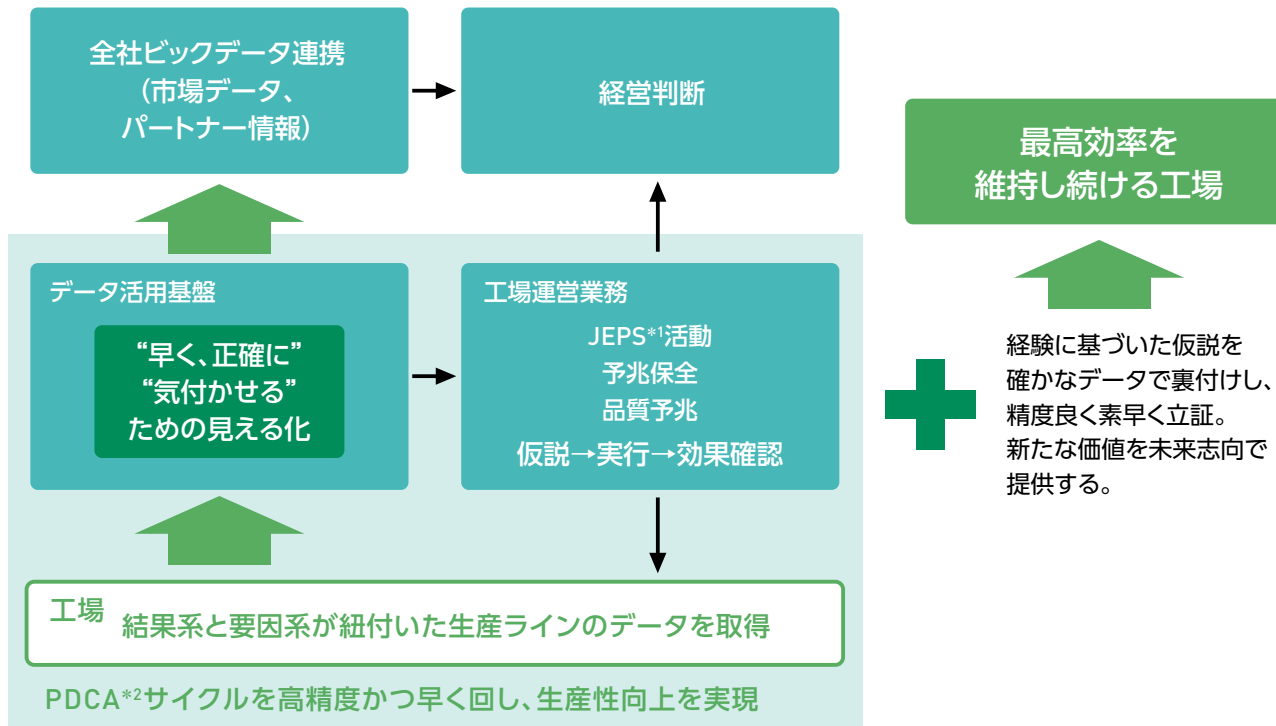


モノづくりの考え方

スマートファクトリー化の実現

ジャトコは工場のスマートファクトリー化を推進しています。デジタルソリューション部を中心に、モノづくりのDX（デジタルトランスフォーメーション）を進め、生産性向上や省エネルギーを推進しています。

ジャトコのスマートファクトリー構想



*1 JATCO Excellent Production System

*2 Plan-Do-Check-Act

設備の稼働状況を可視化

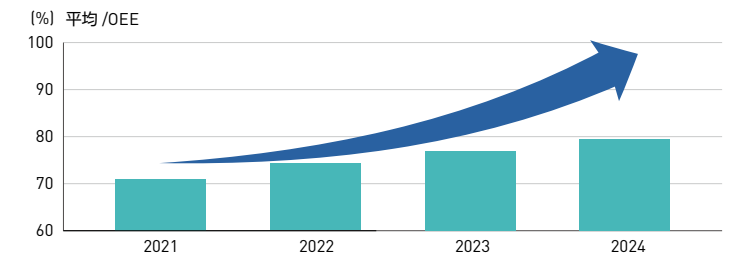
ジャトコの工場は素材仕入れ、加工、組立、検査、出荷に至る一連の工程を1本のラインのように同期させることで、一切の無駄を排除するシステムを組んでいます。途中で生じたエラーにより生産が止まれば次の工程、またその次の工程へと影響が出てしまいます。そうした影響をなくすためにも、生産工程の設備状態を常時見えるようにすることで「止まらない工場」を目指しています。職場で発生した品質問題などを直ちに解決するQRQC*を基本とし、稼働状況が一目で分かる稼働管理ソフトウェアを内製で作成。これにより、チョコ停や故障などの現象を素早く把握し対策を打つことで、生産ロスを減らすことが可能になりました。稼働モニターの導入により、生産ラインの効率が約10%向上しました（2021年比）。



廃棄物専用運搬車両による処理施設への運搬

ジャトコは究極の効率と品質を目指し、デジタル技術の幅を広げながらスマートファクトリーを実現しています。そして、1台のユニットを製造するために消費するエネルギーを最大限削減し、カーボンニュートラルの実現に寄与します。

設備総合効率(OEE)実績



* Quick Response Quality Control

モノづくりの考え方

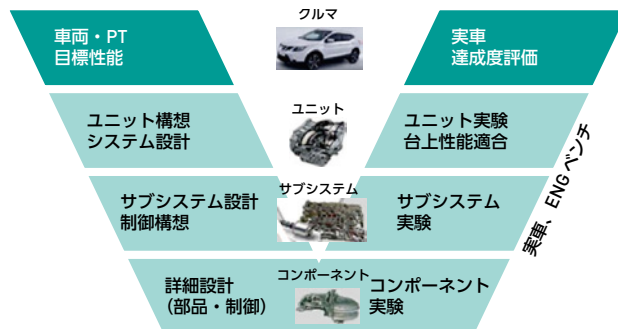
ジャトコの製品開発および生産準備のプロセスでは、可能な限り初期段階から高精度かつ詳細な設計検討を行い、性能を作り込む「フロントローディング」を推進しています。

これにより、後工程での修正や実機による試行錯誤の繰り返しを抑制し、開発・生産におけるエネルギー効率の向上を図り、社会の環境負荷低減に貢献しています。

システムズエンジニアリングのVプロセスによる開発

多様化・高度化する製品への性能要求に対し、設計と実験の繰り返しを削減するため、システムズエンジニアリング(SE)のVプロセスの考えを導入しています。

Vプロセスにおける各システム階層での設計・検証にはMBD (Model Based Development: モデルベース開発) 手法を活用しています。これは実際にクルマを走行させたときに各機能部品に発生する現象をコンピューター・シミュレーションで予測し、バーチャル評価を行うものです。



これらSEとMBDを組み合わせたMBSE(Model Based Systems Engineering)のアプローチにより、フロントローディングを推進し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

バーチャル評価による環境負荷低減

Vプロセスの実験プロセスでは、これまで実車で実験していたものをバーチャル実験 (HILS* など) に置き換えています。また、新たに織り込む制御システムなどもバーチャル上で確認することで、実車に搭載した際に手戻りなく開発できるようになりました。これらバーチャル評価が進むことで、開発期間が短縮できることはもちろん、実車を使った実験が減り、試作品の削減や実験用燃料の削減など環境への効果もあります。

また、システムズエンジニアリングの手法を既存商品や次世代商品に適用し、グローバルに展開することによって50%の手戻り率改善が見込まれ、開発期間の短縮だけでなくフィジカル実験の削減によるガソリン使用量の削減にも貢献しています。

* Hardware In The Loop Simulation

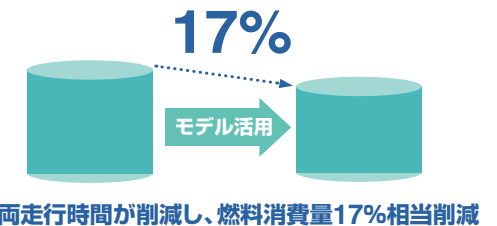


HILSを使ったバーチャル評価

バーチャル実験による効果例



HILSなどを用いて、車両走行状態での結果をシミュレートし、実際に車両を走行する条件を抽出



世界一の開発効率を目指し MBD推進センターなど外部団体へ参画

モノづくりの輪を広げ、日本の自動車産業の発展に貢献するため、ジャトコは、国内自動車メーカー、部品メーカーからなるMBD推進センターに参画しています。MBD推進センターでは、大学などが創出したモデルを自動車メーカーと部品メーカーがすり合わせ、同じモデルを開発に使用することで、自動車業界全体として、手戻りのない世界一の開発効率を実現することを目指しています。

このMBD推進センターに当社も参画することで、カーボンニュートラル対応等を含む自動車技術革新に貢献しています。